

第 1 章 はじめに

気象研究所では、気象庁の次期現業海況システムである日本沿岸海況監視予測システム（以下、JPN システム）を開発した。JPN システムは、従来の対象である中規模～大規模スケールの海洋現象から、ひとまわり時空間スケールの小さい海洋現象を監視予測することを目的とし、数日から 1 週間スケールの日本の沿岸域で発生する急潮や暖水波及等のイベントを捉えることが可能になる。JPN システムを活用することで、急潮や暖水波及等の沿岸域の漁業被害対策や、異常潮位に伴う沿岸水位上昇に対応した防災情報の発信など、様々な社会活動において有用な情報となりうる。

気象研究所では、JPN システムの現業導入に向けた検証試験を実施し、モデル (Sakamoto et al., 2019) 及びシステム (Hirose et al., 2019) のそれぞれの成果をまとめた。Hirose et al. (2019) では、2008 年から 2017 年までの 10 年間の再解析実験を行い、その結果を衛星観測や現場観測データを用いて精度検証を行い、本システムが対象とする沿岸現象を表現できる能力を持っていることを示した。

本報告では、日本沿岸海況監視予測システムの概要と、10 年再解析データの統計資料である JPN Atlas 2020（以下、JPN Atlas）の説明を行う。次に JPN システムの概要及び実験設定、作図方法について記す。JPN Atlas には、水温や流速等の月平均の平均場や変動場、及び気象庁が現業で監視している海況指標等を、図にまとめている。